きたかみ在宅医療介護連携支援だより

発刊：第８号
発行：平成 30 年７月

北上医師会　緩和ケア　医療講演会市民公開講座
「岩手県中部病院の緩和ケアについて」
「今、春が来て～いのちを奏でる緩和ケア～」

主催　北上医師会　　共催　岩手県医師会　北上市　北上市在宅医療連携支援センター

3 月 16 日　日本詩歌文学館にて緩和ケア医療講演会市民公開講座が行われ、市民・医療・介護・福祉関係者 100 名が参加しました。岩手県立中部病院緩和医療科長 星野彰氏（地域医療科長・地域医療福祉連携室長兼務）は「岩手県立中部病院の緩和ケアについて～がんになっても安心して暮らせる町を目指して～」と題して、緩和ケア病棟の様子、チームの力と地域の連携を大事にしながら患者さん一人ひとりを支え続けていきたいと講演されました。

埼玉医科大学総合医療センター緩和ケア推進室長 呼吸器外科准教授 儀賀理暁氏、社会福祉法人あすはの会みしょう音楽療法士 正司侑子氏を講師に迎え「今、春が来て～いのちを奏でる緩和ケア～」と題し、お二人の透き通った歌声とギター演奏が披露されました。「がんの治療は日々進歩してきており、病気を患った人や家族も生活するうえで言葉だけではなく、何かを伝えあうのです。」と音楽療法について映像も織り交ぜながらのお話でした。音楽を交えての緩和ケアの場面を見て涙する方もおりました。その人の与えられた運命に今、どう生きたいか自分で決めたことにどう寄り添いどう支えていくか考える時間でした。

第７回・第８回　多職種連携事例検討会ケアラボ@きたかみ

主催：北上市・北上地域包括支援センター主任ケアマネ部会・北上市在宅医療介護連携支援センター

第７回ケアラボ@きたかみは、4 月 26 日、北上市役所５階会議室において開催されました。参加者は 74 名でした。今回のテーマは、地域課題カード(一人暮らし、多問題家族、つながりのジレンマ、認知症、住まい、老老介護、認認介護、専門職の忙しさ、暮らしの足がない、障害者)を使って現状確認と未来に向けたアクションを考えました。様々な地域課題に対し、今あるものや北上ならではの資源を活用し、これまでの型にはまらない解決策が挙げられるなど、活発な議論がされました。

第８回ケアラボ@きたかみは、6 月 21 日、同会場にて、ニチイケアセンター北上　ケアマネジャー渡辺正子氏を事例提供者に迎え、「対象者のニーズ（主訴・願い）は何か、言葉の裏に隠れた思い、ニーズはあるか」をテーマにたくさんの職種が意見交換を行いました。参加者は 93 名でした。この回は看護師の参加も増え、多職種の考えを意見交換できる場であり、知識を深めて行ける場になってきているのではないかと思っております。皆様の参加をお待ちしております。

北上地区ケアマネジャー連絡協議会
第 1 回研修会　主催　北上地区ケアマネジャー連絡協議会

5 月 11 日、北上市総合社会福祉センター会議室において、北上地区ケアマネジャー連絡協議会の総会後に「幸せに歳を重ねるための心づもり」と「人生最終章のためのアプローチ」と題し、岩手県立中部病院副院長 星野彰氏（地域医療科長・緩和医療科長・地域医療福祉連携室長兼務）による研修会が行われました。星野氏によるきたかみ版こころづもりノート(仮)についてのプレゼンテーションの後、参加者 105 名がノートを用いたロールプレイを行いながらノートの使い方について検討を行いました。その後、人生の最終章を支えるケア、緩和ケア、エンドオブライフケア実践編、いのちの話、お別れが近づいたらどう支えたらいいかについて星野氏からお話しいただきました。「家族が家族の最期に向き合う場面をチームで支え続けていくことが大切で丁寧に向き合い支援していきましょう。がんになっても歳をとっても安心して暮らせるまちをめざして一緒に頑張りましょう」とエールが送られました。

平成 30 年度第 1 回北上市在宅医療介護連携推進協議会

6 月 1 日、北上済生会病院において、平成 30 年度第 1 回北上市在宅医療介護連携推進協議会が開催されました。北上市、北上市在宅医療介護連携支援センターより、平成 29 年度事業報告及び北上市在宅医療介護連携推進事業第 II 期総括について報告後、職能団体等の代表である参加者の皆さまより、活動報告が行われました。多職種が連携しやすい環境整備として、北上市在宅医療介護連携支援センターのホームページの開設、研修ニーズ調査の実施、介護予防研究会を立ち上げし、多職種連携短期集中モデル事業「元気アップ教室」、介護予防に係る事例検討会を実施したこと、また、連携コーディネート機能を担う連携支援センターの 29 年度総相談件数が延べ 188 件（実件数 94 件）と、28 年度延べ 88 件（実件数 55 件）の 2 倍以上に増加したことが報告されました。

次に、30 年度事業計画案について協議が行われました。これまで取り組んだ多職種のネットワーク形成を活かしながら「多職種連携向上・市民意識醸成期」として、在宅チームケア体制の構築に向けて具体的な課題解決と、市民ニーズに配慮した意識啓発に取り組み、多職種の顔の見える関係のその先へと取り組みを進めていくこと、主な取り組みとして、入退院支援作業部会の立ち上げ（年 6 回開催予定)、認知症初期集中支援チームの設置、入所施設を対象とした看取り等実態調査、市民のケア選択支援（心づもり支援)、医療・介護人材育成のためのテーマ型研修会（通年）などが示されました。

事業計画に対して、施設や診療所看護師向けの研修企画がほとんど無く、開催を期待すること、入所施設の看取り等実態調査について、人材不足も大きな課題であろうという意見をいただきました。

北上認知症連携セミナー～多職種で支える認知症～

共催　北上医師会　武田薬品工業株式会社　　株式会社バイタルネット　ヤンセンファーマ株式会社

6月13日、ブランニューキタカミにおいて北上認知症連携セミナー～多職種で支える認知症～が、開催されました。参加者は100名で医師、薬剤師他、たくさんの職種の参加があり、関心の高さがうかがえました。はちのへファミリークリニック院長の小倉和也医師の講演会では「地域包括ケアシステムにおける認知症ケアについて」と題し、八戸市の家庭医としてクリニックを運営し在宅医療の多職種連携コミュニティチーム[connect8]を立ち上げた活動をお話しされました。モデル事業から現場主導でネットワークづくりを始め、介護サービスを受けている認知症の方や独居の方の情報を登録し、万が一医療的介入が必要になったときすぐサポートできる仕組みを作ったそうです。その後、いわぶち脳神経クリニック院長の岩淵医師が高齢者運転免許返納事例の提供を行い、地域でどう支えればＱＯＬを下げずに生活できるのか、多職種でグループディスカッションが行われました。

幸せに歳を重ねるための心づもり

『～話し合うためのきっかけづくりノートを作成しています～』

主催　北上市・北上市在宅医療介護連携支援センター

北上市では、平成28年度から市民向けのフォーラムを開催し、病気や障がいを抱えても、自分らしく歳を重ねていくために何が必要かを参加者と共に考えてきました。フォーラム参加者へのアンケートから、「自分が年老いてきた時のことを話し合いたいと思っても、話し合うきっかけが持ちにくい」という実態が分かりました。そこで、フォーラム参加者を中心に、「どんな心づもりがしたいのか、どうしたら話し合いや心づもりができるのか」を考えあう勉強会を立ち上げ、県立中部病院の星野彰医師をコーディネーターに3回開催しました。勉強会では、話し合うきっかけとなるツールが必要ということが分かり、「心づもりノート」を作成してみることになりました。ノート案は、市民、医師、薬剤師、看護師、ケアマネジャー、医療ソーシャルワーカー、地域包括支援センター・市・在宅きたかみのスタッフ16名が全6回、約半年かけて打ち合わせを重ね、作成しました。ノートコンセプトは、「より良く生きようとする本人の想いが中心にあること」「話し合うきっかけになること」「年齢問わず使えるもの」「必要な情報について知る、相談できる方法がわかること」となっています。

今後はノート案のお披露目とノート活用に関するアイデアを話し合うため、下記の通り勉強会を開催予定です。

『第４回　幸せに歳を重ねるための心づもり勉強会～心づもりノート編～』

日時　8月6日（月）18：30～20：00

場所　さくらホール　大アトリエ

●問い合わせ先　北上市長寿介護課

（☎72-8221）

入退院支援作業部会がスタートしました

主催　北上市・北上市在宅医療介護連携支援センター

今年度、全６回を予定とした、入退院支援作業部会がスタートしました。この部会は、４フェーズの視点（日常の療養支援・看取り・緊急時の対応・入退院支援）から、医療・介護・行政が共通で必要とする情報の検討と、入退院時連携にあたっての主な課題と対応策の提案を行うことにより、入退院支援の推進及び医療と介護の連携推進強化を図るとともに、医療介護連携・多職種協働のスキルアップと在宅チームケア体制の構築を図ることを目的としています。北上市、北上市内の医療機関、ケアマネジャー連絡協議会、老人福祉施設連絡会、地域包括支援センター、いわて中部ネット等の構成メンバーで、①いわて中部ネット「介護・行政」の必要情報の検討、②医療と介護の情報提供書（在宅情報）の検討、③入退院時連携にあたっての主な課題と対応策の提案を行っていきます。５月 28 日、７月 11 日と、これまで２回の部会を開催し、医療と介護の情報提供書様式の検討、入退院支援における、いわて中部ネットの活用について検討を開始しています。地域の方々が住み慣れた地域で最期まで暮らせる、長寿を喜び合えるまちをつくるためには、その方を支える在宅チームを作ることが必要です。多職種それぞれのプロフェッショナリズムをフルに生かした在宅チームケア体制の構築が急務です。「ほとんど在宅、ときどき入院」を目指し、部会による検討を進めていきます。第３回部会は、９月 11 日開催予定です。

平成 30 年度在宅きたかみ/医療・介護人材育成のためのテーマ型研修会

第１回「高齢者の特色と救急車を呼ぶ前に・・・。」

主催：北上市在宅医療介護連携支援センター

６月 26 日、北上済生会病院大会議室にて、北上済生会病院救急科長兼循環器科医長　南仁貴氏により**「高齢者の特色と救急車を呼ぶ前に・・・。」**の研修会が行われました。参加者は 75 名で 12 職種の方が参加されました。高齢者の救急搬送の現状や特徴的な疾患、観察ポイントについて説明を受け、バイタルサインや普段の様子を知りいつもと違うと感じたとき病院受診をどうするかの判断について学びました。「症状の説明があり役に立った」「わかりやすかった」「普段高齢者の方を見ていて不安なことや判断に迷うことがあり大変参考になった」とのご意見を頂きました。

この研修会は昨年度、実施した「在宅医療介護連携事業研修会に関するアンケート調査」をもとに企画しました。医療・介護・福祉・行政に従事する専門職等に対して４フェーズの視点（日常の療養支援・看取り・緊急時の対応・入退院支援）に沿ったテーマ型の研修を提供することで、医療介護連携・多職種協働のスキルアップと在宅チームケア体制の構築を図ることを目的としています。第１回の参加者が多く会場都合によりお断りしましたが、出前講座の方もお受けしておりますので連絡ください。

４月から髙橋範行係長が着任されました。

左から皆川課長補佐、
中央は髙橋係長、
右は　住吉主任保健師

左からセンター長　柴内一夫
MSW　菊池涼子
事務職員　菊池愛
看護師　菊池絹子

〒024-8506 北上市花園町一丁目 6-8
（北上済生会病院管理棟 2 階）
北上市在宅医療介護連携支援センター
TEL：0197-88-3011　　FAX：0197-88-3012
http://www.zaitaku-kitakami.com/